見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち

November 2017

vol.43

November						
S	M	T	W	T	F	S
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

◆ 大幸八幡社

所在地：名古屋市東区大幸

交　通：地下鉄名城線「砂田橋」駅 北 約 400m

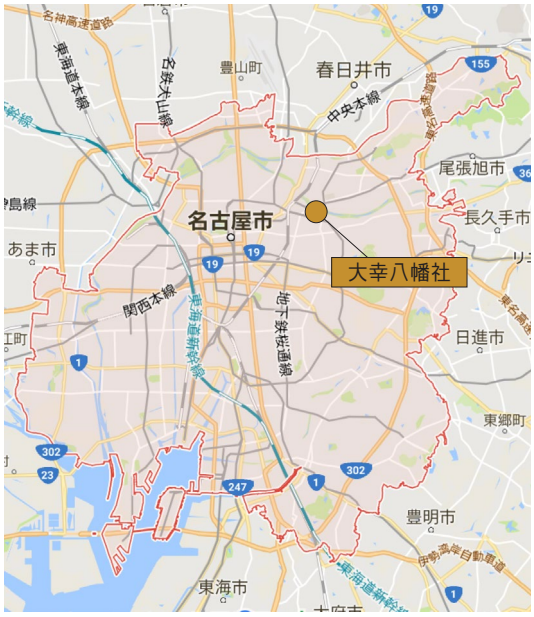
ナゴヤドームや大曽根駅に近い名古屋市東区の北の端、矢田川のほとりに大幸八幡社があります。このあたりはかつて大幸村と呼ばれ、明治 22（1889）年に周辺 6 村が合併し六郷村を形成しました。その後、明治 24（1891）年 10 月 28 日に濃尾地震が発生し、この六郷村でも大きな被害が出ます。この震災からの復興を紀念した震災紀念碑が現在、大幸八幡社に安置されています。

震災紀念碑の碑文から、濃尾地震の被害の様子や当時の状況を知ることができます。前段には、巨大な地震により瞬時にして地が裂け家が倒れ、これによって圧死や負傷した人が六郷村でも数十名に至ったこと（轟然万雷ノ鳴響ヲ発シ、巨大ナル地震、尾濃両国ノ平野ニ起リ、瞬時ニシテ地裂ケ、家倒レ、為メニ、圧死・負傷セシ者、本村ニ於テモ数十名ノ多キニ至リ、実ニ言語ニ絶セシ惨状ヲ極メタリキ）、さらには、堤防が地震による液状化などにより崩れた様子、そうした状況で洪水が起これば、家や田畑は流されて失ってしまうことになるだろうと村の人々が恐れたこと（我大字、堤防・用水路ノ如キ、悉ク崩潰セシヲ以ッテ、一朝洪水ニ際セバ、家屋ヲ流シ田圃ヲ失ウヤ必セリ）、が記されており、六郷村の人々は、この場所に永住する目途がたたないため、他町村への転居を希望するに至った（故ニ到底茲ニ永住スルノ目途ナキを以ッテ、人々挙リて他町村へ転居セント欲スルニ至レリ）、とされています。

しかしその後、天皇による救恤（きゅうじゅつ）（困っている人に見舞いの品などを与えて救うこと）や各地から寄せられた義援金により復旧工事に取りかかることができ、1 年以上の歳月をかけて元に戻ることができた（然ルニ畏クモ、聖上皇后両陛下ヨリ莫大ノ御救恤金ヲ下シ賜ハリ、（中略）歳余ニシテ効成リ、旧形ニ復セリ）ので、村民はこの場所にとどまることができた、と感謝の念が述べられています。なお、この震災紀念碑は、震災から 2 年後の明治 26（1893）年 10 月 28 日に建立されています。

濃尾地震の際に、矢田川の堤防の崩壊によってどの程度河川の水が流出したのかは定かではありませんが、津波のおそれがない地域でも、川の水位によっては壊れた堤防からあふれ出した川の水により、浸水する可能性のある場所があります。また、碑文にあるとおり、地震後に堤防が復旧する前に台風や大雨に襲われれば、大きな被害が出る可能性があると言えます。特に大きな川の近く、水位の高い川の近くにいるときには、海岸沿いではなくても水が襲ってくる可能性があることを意識しておきましょう。

なお、この大幸八幡社は、近隣の学校などの防災学習によく利用されており、ホームページで翻字や訳文なども披露されています。

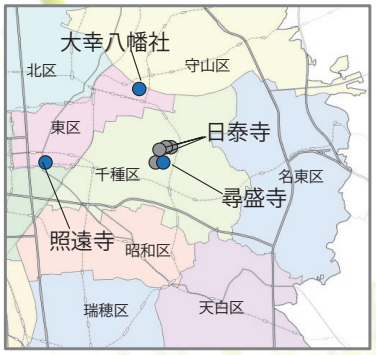


◆ 災害にまつわる碑や史跡には、実際にその地域で起こったことが記録されているだけでなく、当時の人たちの思い（二度と被害を繰り返さないように、など）が込められています。碑や史跡の前では、災害が実際にこの地域で起こるということを実感していただくとともに、そうした先人たちの声に耳を傾け思いを巡らせ、身の回りの備えにつなげ、これからの防災に活かしてください。

◆ 大幸八幡社の周辺には…

● 日泰寺（関東大震災供養堂ほか）

所在地：名古屋市千種区姫池通（関東大震災供養堂）
交　通：名古屋市営バス「姫ヶ池」停 東 約 50m



大正 12（1923）年の関東大震災で愛知県の人々は、官民挙げて救済費の支出や救援物資の輸送、救護班の派遣など、惜しみない協力を行っています。日泰寺には、奉安塔の入口に、関東大震災供養堂（写真左）があるほか、地下鉄自由ヶ丘駅のすぐ近くにある日泰寺の八十八ヶ所霊場には関東大震災惨死者供養塔（写真中）があります。

また、関東大震災横死者追悼之碑（写真右）は、震災当時の名古屋市東区蒲焼町（現在の中区錦 3 丁目）の青年会が関東大震災の犠牲者を悼んで建設した碑です。日泰寺墓地内に建てられていたものの、昭和34(1959)年の伊勢湾台風で倒れ、そのままになっていましたが、現在では日泰寺の敷地内に再建されています。

◆ 詳細な地図は『歴史地震記録に学ぶ 防災・減災サイト』（http://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/index.html）をご覧ください。

★ 徳川園紅葉祭

尾張藩 2 代藩主の徳川光友が、隠居所として大曽根屋敷に移り住んだことを起源とする徳川園は、池泉回遊式（中心に池を設け、その周囲を巡る形式）の大庭園で、11 月中旬頃から、庭園内のモミジやニシキギなど、約 300 本の木々が鮮やかに紅葉します。

毎年この紅葉の季節に、徳川園紅葉祭が開催されます（平成 29 年は 11 月 17 日～ 12 月 10 日）。紅葉祭の期間中の 11 月 17 日～ 19 日、23 日～ 26 日には、夜間開園・ライトアップが行われるほか、「紅葉灯りみち」として、織部焼きなどの陶器や竹製の行灯を使って園路を照らす「灯りみち」が作られます。また、期間中には、紅葉に合わせたハープ演奏による音楽会、尾張徳川家にまつわる講話、近隣の高校生によるコンサートなどのイベントも開催されます。

Aichi Now HP より

11 月のあいちの花

みんなの園芸 HP より

平成 29 年 11 月のあいちの花はシャコバサボテンです。

シャコバサボテンは、ブラジルのリオデジャネイロの低地から高地までにおよそ 5 種が分布するサボテンで、主に樹上や岩の上に根を張ります。甲殻類のシャコの形に似た平べったくやや厚みのある葉（正確には茎節（けいせつ））を持つことから、「シャコのような葉のサボテン」の意味で名付けられました。

大輪で花付きのよいデンマークカクタス、冬に咲くクリスマスカクタスが有名です。

●ブレイクタイム●

♪ 徳川美術館

徳川美術館 HP より

徳川美術館は、徳川園に隣接する美術館で、尾張徳川家に伝わる「大名道具」を収蔵しています。収蔵品は、徳川家康や尾張徳川家の歴代当主の遺品をはじめ、総数およそ 1 万件余りに及び、その中には「源氏物語絵巻」など国宝 9 件も含まれます。大名家の伝来品が散逸してしまった昨今、大名家のコレクションとしてまとまった貴重な美術館です。

美術館の建物は、外観デザインを公募により募集し昭和 7（1932）年に着工、昭和 10 年春に完成したもの（現在は企画展示室と南収蔵庫）で、当時としては近代的な設備を備えた画期的な美術館として、ヨーロッパの建築界でも紹介されました。

◆ この地域の災害に関する碑・史跡、資料・体験談集、地域に残る古文書、研究資料、郷土史研究者・団体などの情報がありましたら、gensaisan2014@gmail.com まで情報をお寄せください。

◆ 県内の歴史地震記録をホームページで紹介しています。各地の碑や史跡等にご興味をお持ちいただけましたら、『歴史地震記録に学ぶ 防災・減災サイト』（http://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/index.html）をぜひご覧ください。

（発行：減斎の会・名古屋大学減災連携研究センター　平成 29 年 11 月）